

三宅島ふるさとだより

第 53 号 発行日令和 4 年 4 月 1 日 発行三宅島ふるさと再生ネットワーク

発行所 〒173-0005 東京都板橋区仲宿 2-1 佐藤就之 電話 090-4922-0798

佐藤会長、山田貴久 D T P A 顧問に三宅村功労者表彰

2 月 1 日「村民の日」に各界の功労者として受賞される

三宅島、在京者、支援者の皆さん 大変ご無沙汰しました。

「三宅島新報 合本」の発行から一年近くなりました。

コロナ禍で、ご苦勞が多いと思いますがお互いに助け合って頑張りましょう。

三宅村は、「村民の日」の 2 月 1 日午前 10 時から三宅村功労者表彰式を三宅村役場で開催しました。

功労者表彰状の受賞者は 17 名で「ふるさとネット」から佐藤就之会長と山田貴久 DTPA 顧問(向上高等学校理事長)が表彰されました。大変うれしく思います。有り難うございました。



受賞者の前列左二人目が佐藤会長

表彰状は、以下の通りです。

表彰状

徳行

三宅島ふるさと再生ネットワーク

会長 佐藤就之殿

あなたは多年にわたり三宅島新報を発行し二千年噴火による全島避難時に島や行政の情報発信によりさまざまな場所に避難し失われつつあった島民同士のネットワークを回復し復旧復興支援に多大なる貢献をされました

ここにその功績をたたえ記念品を添えて表彰します

令和四年二月一日

東京都三宅島三宅村長 櫻田昭正

若者に推薦! 多様性のある考え方ができる良書

回想ノオト 波に揺られて

-見習い時代から局長まで 船舶無線通信士の三十二年- 浅沼徳広 <著> 昭和 12 年三宅島生まれ

(現住所) 〒100-1102 東京都三宅島三宅村伊豆

722 電話 04994-2-0348

*はがき・手紙歓迎します) 領価 1.500 円

〔読者評〕

新型コロナウイルスが長期的に蔓延し、今後も自由に海外渡航できないと予想される。そんな状況でいささか気が滅入っているときに、(2 面につづく)



三宅島の人口動静と教育を考える！

ふるさとネットは、定期出版物をいただいている「少・中学校だより」、三宅支庁総務課行政担当様より毎年の「館内概要」、「東京七島新聞」などがとどく、いつも感謝しながらページを開いている。

「三宅島新報」でも好評であった「会長時報」をこれらの資料を参考にして続けます。

人口動向

まず、2月1日の人口と世帯数(外国人含む)

- ・ 2,354 人 (-8 前月比) 外国人男 7、女 25 合計 32
- ・ 1,538 世帯 (-2 前年比)

人口 20 歳以下 増加の新傾向

館内概要令和 3 年度版では、令和 3 年 1 月 1 日現在の 19 歳以下の増加が示されている。(図参照)

年齢	合計人口	4 月 1 日現在
15～19	41 人	高校生徒 20 人
10～14	60 人	中学校生徒 34 人
5～9	73 人	小学校児童 89 人
0～4	98 人	保育所入所児 62 人

三宅島特殊出生率 1 位 東京で

15 歳から 49 歳まで人口は男女比は、おおよそ 1 対 1 のため合計出生率が「2」以上なら人口増加傾向とみる。三宅島は 2.07%で東京で 1 位となった。

「アシタバ」カで若者たちよガンバレ！

(難しい計算方法は略・東京七島新聞 3 月 18 日号)

小・中学校ともに郷土愛教育を念頭に頑張っている。都が再編に着手、三宅高校の大幅な定員割れが課題。一方大島海洋国際は募集 49 に受検 63 です。

(1 面からつづく)

本書を義父から勧められて読んでみた。

「船舶無線通信士の 32 年間にわたる世界渡航日記」であった。とても新鮮な気持ちで読ませてもらった。

その中身に驚いた。各地で体験した「自然」「出会い」「食事」「風習」「武勇伝」「お国柄」「事故・盗難」などが実に詳細に詰め込まれている。おかげで、その場に自分がいて、自分が経験しているのでは？と錯覚に陥るほどだ。この生々しさは、経験者でないと書き綴ることができないのだと感じた。

昔、指揮者の小沢征爾が若いときにタンカーでフランスのマルセイユ港に赴いたことを綴った「僕の音楽武者修行」を読んだことを思い出した。途中の港での体験や、船内での出来事が書かれていた。本書はそれに比べることのできないほど、臨場感があり、具体性に富んでいる。著者の記憶力も相当のものだと感心した。

日本に住んでいると、生活や人の考え方など、当たり前と思うことが、本書を読んで一変した。世界では、いろいろな生活様式があり、多様な物事や考え方に対する常識が存在しているのだと知った。おかげで、考えの幅が少し広がった様に感じる。

本書は、自分でもあるが、特に若者に読んでいただき、多様性のある考え方ができるようになってほしいと思う。

評・笠原 正史

経営コンサルタント



(本書のカットより)

イ 児童・生徒数の推移

